

平成 26 年度学校評価のまとめ

〈職員の自己評価・生徒の評価・保護者の評価〉

1 実施 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の教育活動等の自己評価

2 該当職員

教諭・講師	事務関係	総計
58人	13人	71人

3 点検シートの種類(3種) ①学習指導(教科) ②生徒指導(HR・生活) ③事務関係

4 判断基準

A	B	C	D
十分満足できる	おおむね満足できる	少々努力を要する	かなり努力を要する

5 教諭・講師関係の大項目の内容と集計

①学習指導(教科)・・・学習計画, 教科連携, 授業改善, 学習態度の4項目

総合集計(4項目)

評価基準	A	B	C	D
H26年度 %	38.9	53.8	7.3	0.0
H25年度 %	34.5	58.9	6.6	0.0
H24年度 %	36.9	56.0	7.0	0.0
H23年度 %	39.0	52.7	8.1	0.1
H22年度 %	39.3	51.8	8.9	0.0

②生徒指導(HR・生活)・・・生徒理解, 学習・進路, 集団生活, 生活指導, 家庭と連携, 分掌間連携, 環境整備, 表簿管理の8項目

総合集計(8項目)

評価基準	A	B	C	D
H26年度 %	33.2	55.8	10.8	0.2
H25年度 %	30.9	58.2	10.8	0.1
H24年度 %	31.6	56.7	11.7	0.0
H23年度 %	32.7	55.7	11.4	0.2
H22年度 %	30.9	56.6	11.6	0.9

6 事務関係の大項目の内容と集計

業務処理・分掌運営, 職務能力向上, 他の職員との連携, 家庭・地域との連携, 倫理観の5項目

総合集計(5項目)

評価基準	A	B	C	D
H25年度 %	39.6	49.5	10.9	0.0
H25年度 %	29.5	54.3	16.2	0.0
H24年度 %	37.5	45.8	16.7	0.0
H23年度 %	29.4	53.6	16.3	0.7
H22年度 %	26.1	53.5	17.4	3.0

7 生徒学校評価アンケート集計結果

判断基準

5	4	2	1
よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない

アンケート項目と結果(数値は判断基準の平均)

項 目	1 年 生		2 年 生		3 年 生	
	H 2 6	H 2 5	H 2 6	H 2 5	H 2 6	H 2 5
建学の精神・校訓・自立のための心得を理解している	3.6	3.4	3.6	3.6	3.9	3.8
授業はだいたいわかりやすい	3.5	3.5	3.6	3.5	3.8	3.8
授業の進み方はちょうどよい	3.6	3.6	3.7	3.6	3.9	4.0
将来の進路目標をもっている	3.6	3.4	3.7	3.9	4.3	4.4
進路目標達成のため努力している	3.2	3.0	3.2	3.3	4.0	4.0
友人に対する思いやりや周囲への気配りができている	3.9	3.7	3.9	4.0	4.2	4.3
学校行事やクラスの活動に積極的に参加している	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.1
学校の美化に努めている	3.2	3.3	3.4	3.4	3.6	3.5
部活動や生徒会活動・ボランティア活動に参加している	3.7	3.2	3.4	3.5	3.6	3.4
学校から家庭への配布物は持ち帰り伝えている	3.7	3.6	3.7	3.6	3.8	4.0

※集計総数…879名(平成25年度)

8 保護者学校評価アンケート集計結果

判断基準

5	4	2	1
よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない

アンケート項目と結果(数値は判断基準の平均)

項目	H 2 6	H 2 5
入学させてよかった	4.7	4.5
学校生活の様子がよくわかり、学校の雰囲気はよい	4.2	4.3
教育活動・カリキュラムは特徴がある	4.0	4.3
施設設備などの教育環境は充実している	3.5	3.9
進路指導は充実している	4.0	4.3
部活動は充実している	4.2	4.1
生活指導は熱心である	3.9	4.3
子どもの自学自習の習慣が身につけてきた	2.9	2.4
高校生活を通じて子供の進路や夢が明確なものとなった	3.6	3.4
国府高校への進学を身近な人に勧めたい	4.2	3.6

※保護者へのアンケートは用紙を生徒託送し集計したものです。

9 まとめ

1. 教職員の自己評価は、「十分・おおむね満足できる」がすべての項目において85%を上回り、教職員として高い職務意識をもち生徒を指導して行こうとする前向きな姿勢が窺える。この姿勢は生徒に確実に伝わり生徒の資質を高めるなど、「学ぶ力の育成」を教育の方針の一つとする取り組みが浸透していると考えられる。また、生徒ひとり一人を理解するために、授業以外のホームルームや部活動など様々な活動を効果的・積極的に使い、コミュニケーションを深めているのが窺える。
2. 生徒のアンケート結果より、1項目を除いて、他のすべての項目で学年が進むほど学校生活に対する満足感が上がってきている。これは「自立のための生徒心得」の徹底やささまざまな教育活動における取り組み(キャリア教育他)また学校行事等を通して、生徒たちが落ち着いた学校生活を送り、自分を見つめ日々の学習や自分の進路実現に向けて、前向きに取り組んでいる表れと思われる。
3. 保護者のアンケートの結果より、平成26年度は平成25年度と比べると、5項目で数値が低下した。この結果を真摯に受け止めて、学校全体で取り組んで行かなければならない。学校と家庭とが連携をはかり学校行事・クラス懇談会・三者面談などを通して、保護者とのコミュニケーションをさらに密にし、期待に応えられる様に努力して行かなければならない。項目の「入学させてよかった」を5点満点にできるように全職員でがんばって行きたい。